

平成28年度ノリ養殖概況

亀井良則*・古村振一

養殖環境 岡山地方気象台における平成28年10月から29年3月の旬別平均気温の推移を図1、平成28年4月から平成29年3月までの降水量の推移を図2に示した。

養殖期間中の平均気温は、11月中旬から12月上旬と12月下旬から1月上旬は平年より高め、降水量は12月を除いて平年より少なめで推移した。

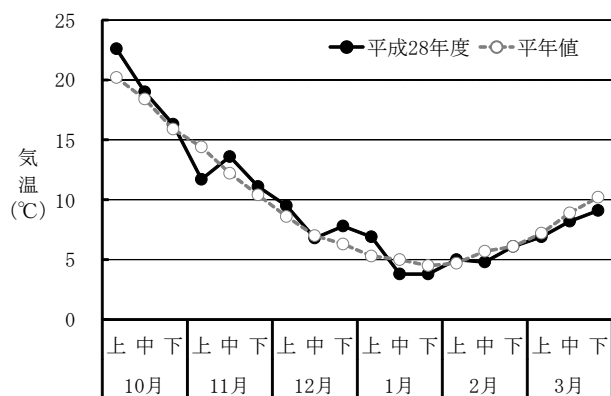


図1 平成28年度漁期の旬別平均気温の推移
(岡山地方気象台)

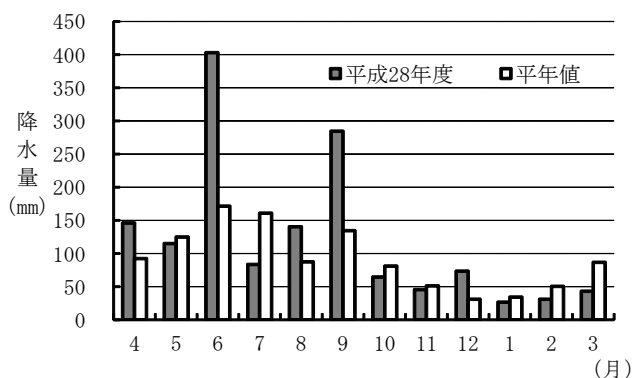


図2 平成28年度月別降水量の推移
(岡山地方気象台)

瀬戸内市牛窓町地先に設置した水温自動観測装置による、水深2m層における日平均水温の推移を図3に示した。10月14日には24℃、11月10日には20℃を下まわったものの、11月17日まで19℃台で停滞した。その後も水温降下は鈍く、漁期を通して平年値より高かった。

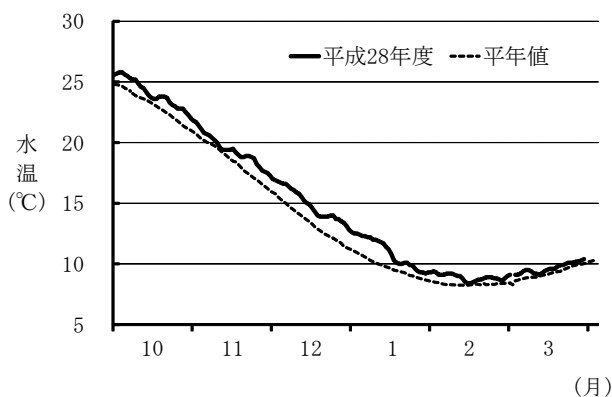


図3 瀬戸内市地先の日平均水温の推移
(水深2m層)

養殖期間中の県下全34から38定点における平均溶存態無機窒素濃度は、12月下旬まで6μM以上で推移したが、1月上旬から減少し、1月下旬には0.82μMまで減少した。その後、回復せず3月まで2μM未満で推移した。(図4)。また、大型珪藻平均細胞数は*Coscinodiscus*属が1月下旬に15.6cells/L、*Eucampia*属が2月上旬に19.8万cells/Lまで増加した。

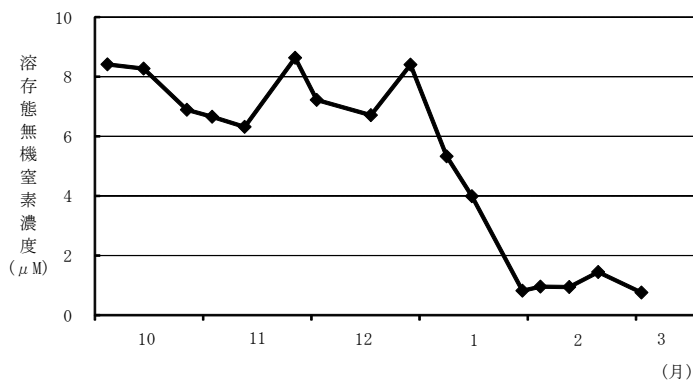


図4 岡山県海域における溶存態無機窒素濃度の推移

採苗および育苗 県内での採苗は1漁協が実施しており、10月上旬から中旬にかけて行われた。

育苗開始は海水温24℃以下を目安としており、10月17日から開始され、11月中旬にほぼ完了した。

生産 例年，単張りは概ね水温19℃を目安に開始される。本年度は，早い地区では11月2日から順次開始され，11月16日頃から本格化した。水温降下が鈍化したため，育苗後に網を冷凍入庫し，単張りを11月25日前後に遅らせた地区もあった。生産開始は早い地区では11月22日から，全県的には11月末頃からとなった。

生産開始当初，鳥類や魚類の食害により生産量は伸び悩み，12月に入っても高水温の影響により被害が続いた。児島湾周辺の一部の漁場では，赤ぐされ病が発生したが，12月下旬まで早期摘採，酸処理に努めたことから，大きな被害には至らなかった。その後一部の漁場で食害は

続いたが，全県的には年明けからまとまった量が生産され始めた。

1月中旬から県西部では栄養塩の減少に伴い色落ちが始まり，2月上旬には県全域に拡大した。2月以降も栄養塩は回復せず，色落ちが続いたが，全国的な不作により岡山県漁業協同組合連合会の共同販売単価が高値を維持したため，生産は概ね3月下旬まで県全域で続いた。

生産結果 今年度の生産枚数は約2.1億枚（前年度比18.2%）と前年より多く，平均単価は11.28円（前年度差+1.55円）と高かったため，生産金額は23.6億円（前年度比137.0%）と前年より増加した。